

ポラリス

札幌社会保険総合病院 院外広報誌

第22号

2011年10月



- パネル「当院のあゆみ」
常設展示コーナー設置について
- ピンクリボン月間イベント
- 第51回 北辰メディカルフォーラム
- 医療の現場から① ②
- 【感染管理部】って？何しているの？誰がいるの？
- 看護局の現状
- こんにちは 医療連携・相談室です
- 七夕の夕べ

ポラリスの由来

ポラリスは北極星を意味します。当院の前身である北辰病院の北辰もまた、ポラリスと同じ北極星を意味する言葉なのです。北極星のように、北国の中心で悠久に燦然と輝き続けたいという願いが込められているのです。題字は秦院長の直筆です。



全社通

URL <http://www.sapporo-shaho.jp/>

パネル「当院のあゆみ」 常設展示コーナー設置について

院長 秦 温 信

かねて懸案でありましたパネル「当院のあゆみ」と展示コーナーが薬剤部窓口前に設置され、10月3日(月)に除幕式が行われました。除幕式には、北海道医師会長の長瀬 清先生と元札幌市医師会長の島田保久先生にご来賓としてご臨席いただき、また佐野文男名誉院長はじめ多くの職員に出席していただきました。長瀬先生と島田先生は北海道医史学研究会の会長と代表幹事でもあります。お二人から大変ご丁寧なご挨拶をいただきました。



当院の創立は、明治26年(1893) 関場不二彦先生が「関場医院」として開設されたのに始まり、「北辰病院」として91年間続きますが、平成2年に札幌社会保険総合病院として現在地に移転し、今年で118年目ということになります。また、先生

が来道したのは明治25年(1892)ですので、来年は来道120年目にあたることになります。

初代院長の関場不二彦先生は恐らく将来とも現れないような偉大な方ではないかと思えます。北海道医師会の初代会長や札幌市医師会の初代会長もされ、北海道での初めての医学雑誌『北海医報』を当時の北辰病院から発行しています。また、昭和8年に『西医東漸史話』という、医学史の本を発刊されております。これは3巻に渡った1319ページという大変な大著ですが、このほかにも膨大な著述が稿本として残されています。



私は先生のような先人の医療に関する闘いから学ぶべきものがあるのではないかと思います。本年4月拙著『北辰の如く—関場不二彦伝』を刊行しました。この本の執筆に当たって収集した資料も含め、まだまだ知られていない創設期の当院のことや、関場不二彦先生のことを多くの方々にも知ってもらいたいと思っていました。拙著発刊を機にパネルとしてまとめると共に資料の一部を展示してはどうかと思い検討してきましたが、今回関係者のご努力によって実現したものです。



当院の院是は「当院は人間愛と人権尊重を基本とした全人的医療をめざします」というものですが、これこそ先生が目指した医療の本質を表した言葉だと思います。近年の激しい医療改革の嵐の中で医療はますます混迷

を深めています。このような時期だからこそ関場不二彦先生の生きざまを知り、改めて医の原点に立ち返ってみると共に当院の歩みを振り返ってみる必要があるのではないのでしょうか。

当院は厚別区ただ一つの公的機能をもった地域医療支援病院として、地域の医療機関と協力して地域の医療・保健・福祉に貢献することを使命としてきました。すべての職員が関場不二彦先生の遺志を引き継ぎ、院是にも掲げている「全人的医療」をこれからも推し進めて行くことを期待するものです。



10月16日にピンクリボン月間イベント開催

乳がん・子宮がん検診Dayと市民公開フォーラム

「乳がん死ゼロをめざして」 健診センター 科長 岩田 佳代

みなさん、ピンクリボンをご存知ですか？

ピンクリボンは乳がんの早期発見・早期治療のシンボルマークです。

日本人の16人に1人は乳がんになると言われています。ここ数年乳がん検診の無料クーポン券が配布されるなど乳がんに対する関心は高まっていますが、まだまだ受診率は低く無料クーポンでさえ4人に一人しか利用していません。ごく早期に発見された乳がんは90%が治癒すると言われていますが、乳がんの死亡数は増加傾向にあります。

当院では、乳がんを自分の問題として意識してもらいたいと2009年より10月第3日曜日にピンクリボン月間として、女性だけの乳がん・子宮がん検診Dayと市民公開フォーラムを開催しております。がん検診は乳がん・子宮がん検診それぞれ50人を対象に普段の検診では行っていない「がん予防」についてのお話や乳房のモデルを使ってのしこりチェックを行っております。



今年は10月16日にシェラトンホテル3階パレスボールルームで自ら乳がんを体験され精力的に活動しているゴスペルシンガーのKKIさんと北海道がんセンターの乳腺外科医長渡邊健一先生をお迎えして、市民公開フォーラムを開催しました。すばらしいKKIさんの歌声と体験談を聞き、渡邊先生が乳がんと乳がん検診をわかり易く解説され、さらに当院の健診を担当している技師らによるパネルディスカッションも行われました。会場には100名を超える市民や医療関係者が集まり、乳がんを知り乳がん検診を考えるフォーラムを熱心に聞き入っていました。

♥ がん検診は「愛する人への贈り物」♥

今年も無料クーポン券は、乳がん検診については40・45・50・55・60歳の方へ、子宮がん検診については、20・25・30・35・40歳の方へ送付されています。今年で3回目を迎えますが、非常に無料クーポンについての問い合わせが少なくあまり利用されていないように感じます。例年、クーポンの有効期限が翌年3月ということで、3月に申込が殺到し予約人数を超えてしまいます。余裕を持って予約していただきたいですね。是非、この機会にいつもとちょっと違う乳がん・子宮がん検診をご利用ください。

自分はがんにかからないと思わないで、がんになっても大丈夫と考えて是非がん検診を受けていただきたいものです。皆さんがピンクリボンマークを目にした時に、自分とその周りの大切な人の健康を考える機会になればと考えます。がん検診は「愛する人への贈り物」です。



第51回 北辰メディカルフォーラム

医療人としての職業倫理とその実践 ～諸外国の事例に学ぶ～

平成23年9月14日午後6時30分より当院講義室において第51回北辰メディカルフォーラムが秦院長の座長で開催されました。

毎回著名な先生をお迎えして講演していただいておりますが今回は日本赤十字医療センター名誉院長 森岡恭彦先生にお越しいただきました。森岡先生は昭和天皇を手術されたことでも有名であり、この北

辰メディカルフォーラムでは過去2回ご講演していただいております。

豊富な経験の中からはいろいろな事例を紹介し「医の倫理」についてわかりやすくお話ししてくださいました。

会場の講義室には大勢の職員が集まり熱心に講演をきいておりました。



医療の現場から①

「心の病気？ 心臓の病気？」 たこつぼ心筋症

内科・循環器科 藤井徳幸



たこつぼ型心筋症という病気があります。詳細が分かっておらず、また発症率もそれ程多くありません。このためいわゆる教科書にも載っていませんし、医師国家試験にも出題されません。なかなか診断も難しく、心臓病の専門である循環器内科のドクターでも診断に至らないということも多々あります。

急性心筋梗塞と非常によく似た病気で、突然発症します。胸痛を訴え、心電図ではSTが上昇しT波変化を伴い、CKやトロポニンTといった心筋逸脱酵素が上昇します。ここまでは急性心筋梗塞と同じです。決定的に違うのは、原因が冠動脈閉塞によるものではないということです。急性心筋梗塞と考え、緊急で冠動脈造影を行い、閉塞がなかったということで診断されるケースも多いのです。もう一つの特徴は、心臓のメインポンプである左心室が基部を除いて大きく膨らんでしまい「たこつぼ」様になってしまうということです。この左心室の異常は2週間以内に正常化することが多いのですが、どうして「たこつぼ」になるのか、どうして元に戻るのかはまだわかっていません。まったくもって奇妙な病気です。

この数少ない奇妙な病気は、臨床登録研究などが行われ、少しずつその様子がわかってきました。この病気の発症には、人間の情動が大きく関与しているのです。辛いことや、苦しいことがあった後などにこの病気が発症するのです。驚くべきことに、病気の発生数が少ないにもかかわらず、高齢の女性が最愛の夫を亡くし、その葬儀中に発症するということがとても多いのです。

現代医学がこれだけ発達し、心臓に関しても基礎医学・臨床医学研究はともに大きく進歩しています。それにもかかわらず、たこつぼ型心筋症は詳細がまだわかっていない奇妙な病気です。そして、もっと奇妙なのは、心臓の形を大きく変えてしまうほどの人間の情動なのかもしれません。

